



**【受式者】** 浦川 直継（うらかわ なおつぐ）さん  
浦川 洋子（うらかわ ようこ）さん  
[九州教区長崎組正蓮寺門徒]

**【法 名】** 釋應隨（しゃくおうずい）  
釋尼淨歎（しゃくにじょうかん）

**—今回の奉仕団での上山を含め、これまでのお寺とのご縁を教えてください。**

**直継さん** 元々、浦川家と正蓮寺さんとは長いお付き合いです。特に来月（2025年3月）に一周忌を控えている父はお寺の地区の総代をしていました。院号法名も、寺院名に由来する字をいただき、住職から父への「大事な人だった」という思いが伝わってきました。

**洋子さん** 足しげく正蓮寺さんの法要や聞法会に足を運んでいた母の後を継いで、お寺に通いだしたんです。住職から「奉仕団に行ってみませんか？」とお声かけいただき今回二人で上山しました。両親と同じく、私たちも生前に帰敬式を受式し、法名をいただくことができる、そして、その場が本山であることが一番の楽しみでした。

**—本日、帰敬式を受式された感想を教えてください。**

**直継さん** 御影堂の厳かさ、冷えた中にもしんとした空気があり身が引き締まる思いでした。

**洋子さん** 親鸞聖人のお顔を拝見しながら、丁寧にお剃刀いただき、言葉にならない感動がありました。

—これから大切にしたいことを教えてください。

**洋子さん** お寺の法要には夫婦そろって毎回お参りしています。法要の際にお聞きした法話をそれぞれが「聞法ノート」に書きとめ、自宅に戻ってから二人で話すこともあります。同じ話を聞いているのに、書きとめる所や印象に残っている所が違うことも多く、自分の都合でしか聞けないなあと思う反面、法話を聞く深さを感じます。

**直継さん** 帰敬式を受式して「もっと知りたい、聞きたいことがたくさんある」という思いが沸いてきました。これまで「正信偈」をテーマに学ぶ定例法要には洋子さん一人での参加でしたが、これからは私も一緒に参加したいと思っています。

「帰敬式受式を通して、お寺や浄土真宗がさらに身近になりました」と口をそろえて話されたお二人。「法話を聞いて自身の思いを語る」。仏弟子としての二人の歩みが始まりました。